

国土交通省総合政策局
情報政策課交通経済統計調査室
平成27年1月9日(金)公表

トラック輸送情報

平成26年10月分

平成26年11月分は平成27年2月上旬公表予定

*問い合わせ先

国土交通省総合政策局情報政策課交通経済統計調査室

電話 03-5253-8111 F A X 03-5253-1567

担当 西永、桑原 内線 28-723

この調査報告の概要は、国土交通省ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

トラック輸送情報（平成26年10月分）

平成27年1月9日

総合政策局 情報政策課 交通経済統計調査室

担当：西永、桑原 内線28723

直通：03-5253-8346

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

（1）本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、5,624,019トンで、前月と比べ総輸送量が約350千トン増加したため、前月比106.6%（季節調整済み98.3%）となり、前年同月との比較では、約153千トン減少したため、前年同月比97.4%の実績であった。

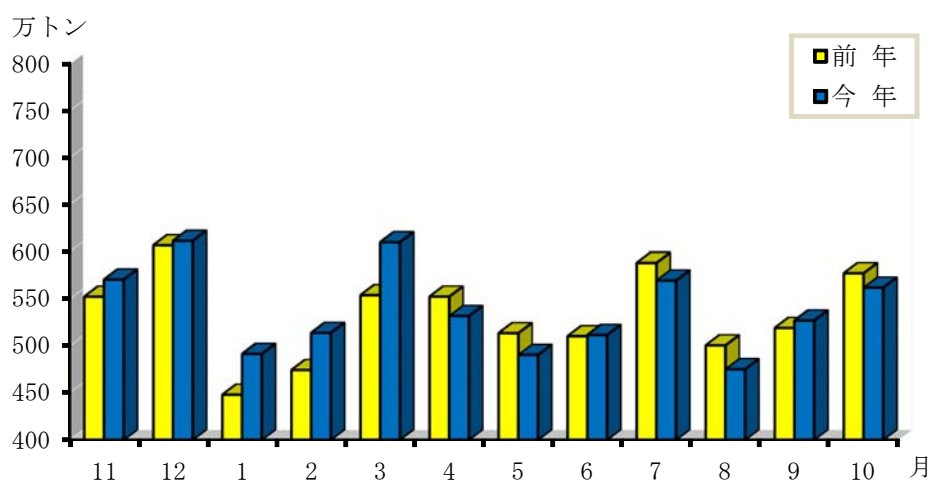
なお、平均稼働日数は25.0日で、前月と比べ1.5日増加し、前年同月と同日数であった。稼働1日当たりの輸送量は、224,961トンで、前月と比べ約1千トン増加したため、前月比100.2%となり、前年同月との比較では、約6千トン減少したため、前年同月比97.4%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

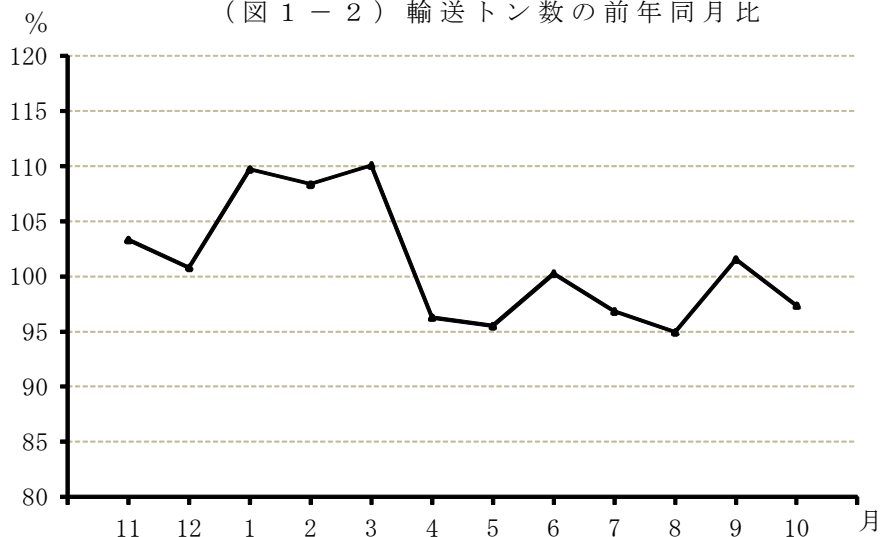
注）平成25年2月から貨物輸送の調査対象については、24社となった。

前月比及び前年同月比は、24社ベースで比較している（図1-1及び図1-2は24社ベースで作成）。

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

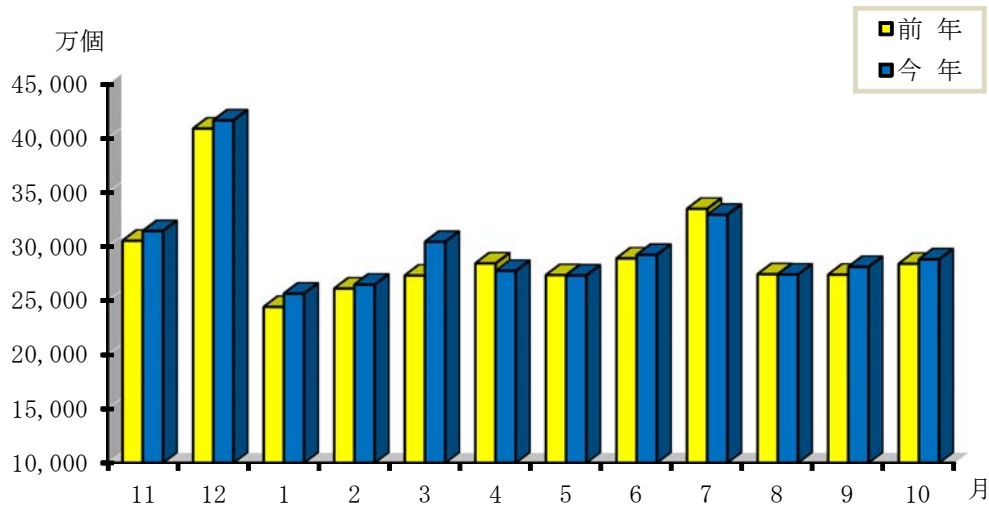


(2) 宅配便の概況

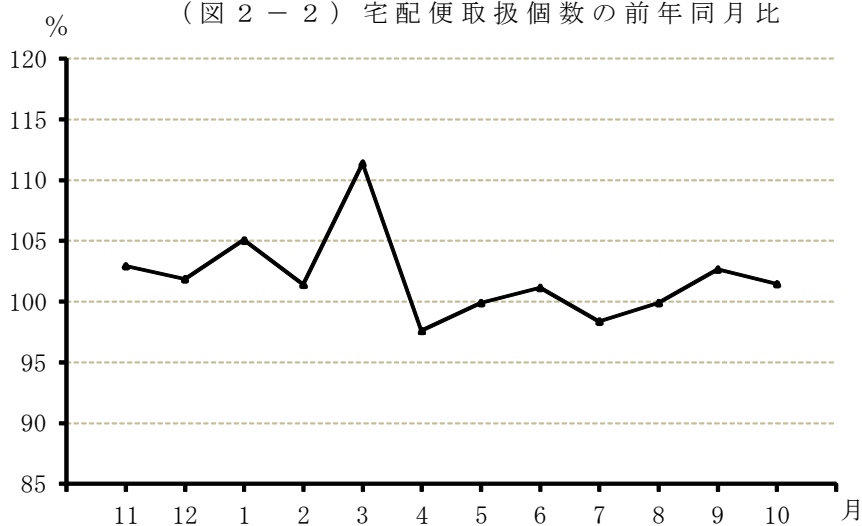
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 288,306 千個で、前月と比べ 約 6,971 千個増加したため、前月比 102.5%(季節調整済み 99.7%) となり、前年同月との比較では、約 4,089 千個増加したため、前年同月比 101.4% の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

調査対象 25 社(24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社)は、前月と比べると、全ての品目において、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。その増加要因としては、工場・生産地からの貨物増であった。また、倉庫から出る貨物増が「機械」、「化学工業品」で、季節的需要増が「日用品」で見られた。地域については、関東地方から中国の範囲で増加したと回答する事業者が多かった。

前年同月と比べると、全ての品目において、輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品 目		増減事業者数						主 な 増 減 品 目 (上段が増加・下段が減少)	主 な 増 減 地 域	※ 増減要因
		著 増	増	変 ら ず	減	著 減	減			
前 月 に 比 べ て	農 水 産 品	1	4	10	1	2				4
	金 属 製 品		5	14	2			東京、大阪		4
	機 械		6	11	3			関東、北陸信越、中部地方、近畿地方		4, 7
	化学工業品		10	11	1		合成樹脂	関東地方、北陸信越、中部、近畿地方、中国		4, 7
	繊維工業品		5	16	1			関東		4
	食料工業品		5	14	1			愛知、近畿		4
	日 用 品		6	14	2			関東		4, 8
	そ の 他	1	6	10	3	1				
前 年 同 月 に 比 べ て	農 水 産 品		3	11	3	1				
	金 属 製 品	1		16	4					
	機 械		3	11	6					4
										4
	化学工業品		2	16	4					
	繊維工業品		1	16	3	2				
	食料工業品	1	1	15	3					
	日 用 品		1	15	6					
	そ の 他	1	3	11	6		その他(百貨店配送品)			

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者804社／調査対象事業者数1,038社)の輸送量は、前月比 106.4%、前年同月比 100.0%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	100.0 %	100.5 %	100.0 %	100.6 %	93.1 %	99.7 %	100.5 %	96.6 %	107.2 %	100.6 %	103.7 %	
前 月 比	106.4 %	112.8 %	108.6 %	101.6 %	100.9 %	104.6 %	103.3 %	101.1 %	103.2 %	108.7 %	106.8 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	本月の輸送については、対前月比 112.8%、対前年同月比 100.5%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」、「その他の農産品」及び「その他の石油製品」の輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。また、建設関連の需要増により「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「穀物」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。
東北	本月の輸送については、対前月比 108.6%、対前年同月比 100.0%であった。品目別では、新米の集荷、出荷による貨物増により「穀物」が、また、「鉄鋼」、「化学薬品」及び「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。
関東	本月の輸送については、対前月比 101.6%、対前年同月比 100.6%であった。品目別では「動物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「機械」、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。
北陸信越	本月の輸送については、対前月比 100.9%、対前年同月比 93.1%であった。品目別では、季節的需要増により「穀類」、「化学肥料」、「日用品」が、建設関連の需要増により「鉄鋼」、「機械」及び「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。
中部	本月の輸送については、対前月比 104.6%、対前年同月比 99.7%であった。品目別では、「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月および以降とも減少傾向が予想される。
近畿	本月の輸送については、対前月比 103.3%、対前年同月比 100.5%であった。品目別では、決算月が終了し新規受注が増えたことにより「食料工業品」、「化学薬品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「機械」、「金属製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。
中国	本月の輸送については、対前月比 101.1%、対前年同月比 96.6%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」が、工場・生産地からの貨物増により「食料工業品」が、また、「金属製品」の輸送量が増加したと回答した事業者があった。一方、季節的需要減により「野菜・果物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は減少傾向、以降についてはほぼ横ばいが予想される。
四国	本月の輸送については、対前月比 103.2%、対前年同月比 107.2%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」が、工場・生産地からの貨物増により「工業用非金属鉱物」が、建設関連の需要増により「廃棄物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「その他の製造工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は減少傾向が予想される。
九州	本月の輸送については、対前月比 108.7%、対前年同月比 100.6%であった。品目別では、季節的需要増により「穀物」、「野菜・果物」、「木材」、「日用品」及び「動植物性飼・肥料」が、建設関連の需要増により「木材」、「鉄鋼」、「金属製品」、「日用品」及び「その他の製造工業品」が、また、「その他の農産品」、「その他の石油製品」及び「紙・パルプ」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、工場・生産地からの貨物減により「石炭」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。
沖縄	本月の輸送については、対前月比 106.8%、対前年同月比 103.7%であった。品目別では、商社・問屋からの貨物増により「木材」、「金属製品」及び「金属くず」が、季節的需要増により「穀物」、「その他の農産物」が、倉庫への入出庫増により「木材」、「金属製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、建設関連の需要減により「鉄鋼」、「セメント」が、季節的需要減により「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。

(3) 運輸局別、品目別増減状況 (対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運 輸 局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
品 目												
1. 穀 物	増	1	10		2				1	2	2	18
	減	3			1			1				5
2. 野 菜 ・ 果 物	増	8	2		1		1	2	7	8		29
	減	2	3	1	1			4	1	3		15
3. そ の 他 の 農 産 品	増	11			1					2	1	15
	減	1										1
4. 畜 産 品	増							1		1		2
	減	1								1		2
5. 水 産 品	増	1	1		1	1		1	2	1		8
	減	2							1			3
6. 木 材	増	1	2		1			2	2	3	2	13
	減		3					1	1	1		6
7. 薪 炭	増	1										1
	減											
8. 石 炭	増	1										1
	減									2		2
9. 金 属 鉱 物	増											
	減											
10. 砂 利 ・ 砂 ・ 石 材	増	4	1	1	1	1		2	2	3		15
	減	5				1			1	2		9
11. 工 業 用 非 金 属 鉱 物	増	3	1		1				2	1	1	9
	減	2	2		1							5
12. 鉄 鋼	増		2	1	3			1	3	3		13
	減				1			1	2	1	1	6
13. 非 鉄 金 属	増						1					1
	減		1		1			1				3
14. 金 属 製 品	増		1		1	1	1	2		4	2	12
	減		1		1		2		1	1		6
15. 機 械	増	1	1		5	3		2	3	3		18
	減			2	2		3	2	3	4		16
16. セ メ ン ト	増	4	1	1	2				1	2		11
	減		1					1		1	1	4
17. そ の 他 の 窯 業 品	増	1		1	1	1			1	2		7
	減		1							2	1	4

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
品目	増				1							1
	減											
18.揮発油	増	6	1		1			2	1	2		13
	減	2	1		1			1				5
20.コークス・ その他の石炭製品	増	1										1
	減				1							1
21.化学薬品	増		2		1		3					6
	減								1			1
22.化学肥料	増				2					1		3
	減	1										1
23.その他の化学工業品	増				2			1		1		4
	減				1				1			2
24.紙・パルプ	増	1	2					1	3	2		9
	減	1	1						3		1	6
25.繊維工業品	増		1					1	1	1		4
	減		2					1				3
26.食料工業品	増	1	2				3	4	1	3		14
	減	1	1	1	2		1	3	2	4		15
27.日用品	増	1	1	1	3			1	1	5	1	14
	減			1			1			2	2	6
28.その他の製造工業品	増		1		1					4		6
	減								2			2
29.金属くず	増	1									1	2
	減											
30.その他のくずもの	増	1										1
	減											
31.動植物性飼・肥料	増		2	1	1					5		9
	減	4							1	2		7
32.廃棄物	増		3						3	1		7
	減		2		1			1	1	2		7
33.輸送用容器	増								1			1
	減											
34.取り合せ品	増		1									1
	減				1			2				3
35.その他	増	2	1	1	1		5	6		4		20
	減		1		1		3	1		1	2	9